日本対がん協会公式ホームページ

www.jcancer.jp



日本対がん協会公式Twitter @jcancerjp

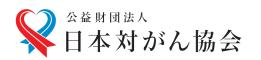


日本対がん協会公式Facebook

JapanCancerSociety



がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい





私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階 TEL. 03-3541-4771 平日10時~17時 公益財団法人日本対がん協会

活動のご案内

2022-2023











がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい





がんで苦しむ人や 悲しむ人をなくしたい

わたしたちはがん征圧の幅広い活動を通じて 「がんになっても希望をもって暮らせる社会」を築きます



会長からごあいさつ

日本対がん協会は1958年の設立以来64年にわたり、 民間の立場でがん征圧を目標にがん予防・がん検診の 推進、患者・家族の支援、正しい知識の普及啓発に取 り組んでまいりました。これもひとえに日頃から協会 を支えてくださる皆さまのおかげです。心より厚く御 礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行が続く現在、協会 の無料電話相談「がん相談ホットライン」には、多くの がん患者さんやご家族から不安の声や相談が寄せられ ています。この活動は本年4月から、年末年始を除いて 通年で実施することになりました。また実際に、患者 さんが感染の不安から病院受診を控えたり、目標通り の診療が受けられない事態が生じたり、健常者のがん 検診も減少したりしています。協会発のニュースとし て、がん検診や病院受診者の減少はメディアでも大き く取り上げられました。協会では感染予防策や注意点 をまとめ、相談があった方へのアドバイスや、専門医 の解説をホームページにアップするなど、今後もコロ ナ禍でのがん対策を講じていく所存です。



生存率が向上し、「がんは治る時代」と言われるよう になってきました。しかし、いまだに「不治の病」とい うイメージをもっている方も多く、自分ががん患者で あることを周りに伝えられない人もたくさんいます。 そうした方々に生きる勇気と希望を持っていただき、 「がん=死」というイメージを変えていくことも、私た ちの活動の大きな柱です。

医療の進歩により、がんを超早期に発見し、適切な 治療を行うことができる時代も、そこまで来ています。 がんは死に至る病から、誰でもかかる可能性のある普 通の病気へと変化しています。それに伴い、治療と就 労の両立、がん経験者の生活の質(QOL)の向上など の新たな課題が浮上しています。また、がん予防の視 点から、禁煙の重要性もますます高まっています。

時代の変化に対応しながら、がんで苦しむ人、悲し む人をなくすために日本対がん協会はこれからも全力 を尽くします。引き続きあたたかいご支援をよろしく お願い申し上げます。

わたしたちは大きく3つの活動を行っています

がん予防・ 検診の推進

がん予防のための禁煙を推進し 早期発見のための 検診受診率及び精度の向上に 取り組んでいます

がん患者・ 家族の支援

がんと向き合う人が 安心して暮らせるように がんと共生できる社会づくりに 取り組んでいます

下しい知識の

情報社会の中で 正しい知識を広めるための 情報発信、研修・ 研究支援活動に 取り組んでいます

一次予防の啓発

- ●啓発ツールの制作
- ●禁煙を中心としたアクションの勧め

検診の推進

- ●日本対がん協会グループの検診
- ●受診率向上の取り組み
- ●新たな検診手法の研究

支える・寄り添う

- ●無料がん相談
- ●リレー・フォー・ライフ
- ●がんサバイバー・クラブ
- ●休眠預金活用の助成金事業

啓発

- ●ピンクリボンフェスティバル
- ●がん教育
- ●機関紙・各種啓発ツールの制作

関心を高める

- ●がん征圧全国大会
- ●がん征圧スローガン

医療の発展

- ●若手がん専門医の育成
- ●がん医療に関する研究の助成
- ●がん医療に携わる 医療従事者向け研修

中学校保健体育科でがん教育が全面実施に。

高校は2022年度入学生から実施 がん対策基本法成立 国立がんセンター開設 がん登録推進法施行 国内の動き ● がんが死亡原因の1位となる がん対策推進基本計画を策定 がん対策基本法改正 1958 1960 1962 2016 2017 2018 2001 2002 2006 2007 2009 2010 2020 •「プロジェクト未来研究助成金」開始 当協会の動き 佐合組織による年 9月を 第1回がん征圧全国大会 「がん相談ホット の検診受診者が 若手医師の海外研修 「がん征圧月間」に • 「日本対がん協会賞」創設 ライン」スタート プログラム開始 リレー・フォー・ラ • 日本対がん協会設立 • 「休眠預金」を活用した イフ・ジャパンの ●「朝日がん大賞」創設 患者支援の助成開始 プレイベント開催 「がん教育基金」創設 日本対がん協会設立からの歩み >>> 「子宮頸がん基金」創設 設立60周年を迎える 医師による「がん無料 ※現・婦人科がんなどから女性を守る基金 乳がんをなくす「ほほえみ基金」創設 電話相談」スタート 第1回ピンクリボンフェスティバル開催 がんサバイバー・クラブ発足 「禁煙宣言」発表

日本のがんの現状と新たな課題への対応

新たにがんと診断される人は毎年100万人前後にのぼります。 コロナ禍において、新しいかたちの取り組みも始めています。

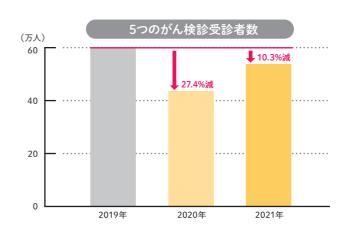
○日本のがんの現状

1981年以来、がんは死因の1位です。生涯で2人に1人が罹患し、毎年全死亡者の約3分の1を占めます。主な要因は高齢化ですが、禁煙は罹患リスクを抑え、科学的根拠に基づくがん検診は死亡率を下げることができます。

2020年がん死亡者数 37万8385人 女性 157,396人 男性 220,989人 白血病2% その他109 膀胱2% 膀胱3% 白血病2% 卵巣3% 主な部位別 主な部位別 悪性リンパ腫」 がん死亡者 がん死亡者 胆のう4% 子宮4% 女性 男性 肝臓69

出典:2020年人□動態統計(確定数)

がん検診の受診状況調査



当協会グループ支部は、自治体のがん検診 (住民検診)を担っています。コロナ禍の中での5つのがん検診(胃、肺、大腸、乳、子宮頸)の受診状況を調べたところ*、2020年は新型コロナ流行前の2019年と比べて27.4%減と落ち込み、2021年も10.3%減とコロナ前の水準まで戻っていないことがわかりました。

※がん検診を実施している42支部のうち33支部が回答

○ 新たな課題に対応した対がん活動

がんは早く見つけることができれば治る可能性が高い病気です。がん検診では多くの早期がんが見つかっています。しかし、コロナ禍による受診控えで早期発見への影響が心配されています。がんが進むと治療の選択肢が減り、身体的・精神的な負担が増えるばかりでなく、治療費など経済的な負担も増えます。がん検診受診者数の回復など新たな課題にも対応しています。

コロナ禍の中での啓発活動

2020年以降、コロナ禍のがん検診やがん診療への影響を多くのメディアが報じています。支部や学会との協力によって得たデータやタイムリーな情報を、メディアへ提供するとともに、機関紙『対がん協会報』や協会ホームページ、SNSで積極的に発信して、「コロナ下でも『がん検診』は必要です」と警鐘を鳴らし続けています。



がん検診無料デジタルクーポン

コロナ禍で減ったがん検診受診者数の回復につなげるため、従来の無料クーポン(紙製)をデジタル化し、スマートフォンなどで手軽に入手できるようにしました。プレゼントキャンペーンも展開し、入手後に未利用の方には受診を促します。春に乳がん、子宮頸がんから始め、秋には大腸がん、肺がん、胃がんを含めた5つの検診に広げる予定です。





、 HPVワクチンに関する情報提供

子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス (HPV) 感染を防ぐHPVワクチンの予防接種は2022年4月、自治体から接種対象者への個別案内などが再開されました。積極的勧奨が中断した2013年6月以降、接種機会を逃した対象者は、公費で追加接種を受けられます。協会は、こうした情報を機関紙や啓発リーフレット、研修会などを通じて発信しています。



がん予防・ 検診の推進

がん予防のための禁煙を推進 し、早期発見のための検診受 診率及び精度の向上に取り組 んでいます



一次予防の啓発

がんを予防するためには、たばこを吸わないことが最も効果的です。日本のたばこ対策は世界的に見て遅れており、 早急な対策が必要です。がんについての正しい知識をもつためのがん教育も重要であり、子どもだけでなく、働く世 代を中心とした大人のヘルスリテラシーの向上にも取り組んでいきます。

禁煙でがんのリスクを下げる

喫煙による死亡 **130,000人**

受動喫煙による死亡 間15,000人

喫煙や受動喫煙は、肺がんをはじめとするさまざま ながんの原因となるばかりか、手術や化学療法、放 射線療法など、効果的な治療の妨げになります。ま た、喫煙が新型コロナウイルス感染症を重症化させ るリスクも指摘されています。近年急増傾向の加熱 式たばこについても同様で、健康への悪影響は否定 できません。現在吸っている人も、禁煙することに よってがんのリスク (がんになる、またはがんで死亡 する危険性)を下げることができます。

啓発ツールのWEB展開

二松学舎大学附属柏中学校で行ったがん教育の特別授業を 「対談編」と「講義編」の2回に分けて映像化し、日本対がん協 会の公式YouTubeチャンネルにて公開しています。がんに ついて関心を持つ「きっかけ」作りに努めています。



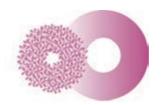


特別授業「対談編」撮影風景

◯ 禁煙を中心としたアクションの推進

がん予防の中心に掲げるのは「禁煙推進」。2018年に発表した禁煙の重要性を広く社会に訴える「タバコゼロ宣 言」もその一つです。今後、多くの人をたばこの害から守るため、オンラインでの情報発信やがん教育を通じて、禁煙 を強く推進していきます。

タバコゼロ宣言



TOBACCO ZERO MISSION

1.喫煙者をなくす

すべての喫煙者に対して禁煙支援サービスを提供する

2.受動喫煙をなくす

すべての人々 (喫煙者も非喫煙者も) を受動喫煙から守る

3.喫煙開始をなくす

すべての子どもたち・大人がタバコを吸い始めない社会をつくる

4. タバコ産業との利害をなくす

すべての協会活動はタバコ産業からの資金提供や協力を受けない

5.新型タバコをなくす

すべてのタバコ製品は有害性と依存性の観点から規制対象とする

禁煙啓発ツールの制作

毎年禁煙ポスターの制作を続け、禁煙リーフレットも制作 するなどし、禁煙推進を図っています。近年では企業や健 康保険組合などからの問い合わせが増え、病院や自治体 以外でのニーズも高まっています。



2022年度禁煙ポスター





写真提供:埼玉県支部(公益財団法人埼玉県健康づくり事業団)【同左頁上】

○ 日本対がん協会グループの検診

日本対がん協会は、グループとして日本で最大規模のがん検診組織としての 責任を果たすべく、科学的根拠に基づく検診の推進を原則としています。 検診の正確さには定評があり、それを基盤に大学をはじめさまざまな研究 機関、企業と新しい検診手法の開発を目指して研究に取り組んでいます。



写真提供:千葉県支部 (公益財団法人ちば県民保健予防財団)

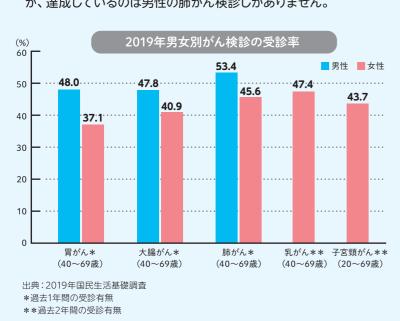
1958年の発足以来の実績

延べ受診者数

年度の 実績

延べ受診者数 889万1958人 がん発見数 9832(かん発見率) 約0.1%)

日本のがん検診受診率は、欧米に比べて低い水準にとどまってい ます。国は受診率を50%以上にすることを目標に掲げています が、達成しているのは男性の肺がん検診しかありません。



「がん検診年次報告書」の発行

各地の支部が実施するがん検診は、地 域の健康を守る大切な役割を果たすと 同時に、がんに関する様々なデータを 収集する研究者たちにとって信頼でき る研究基盤ともなっています。当協会 は支部が実施したがん検診について、 受診者数、がんの発見数、精密検査受 診率など詳細なデータやその後の追跡 調査の結果をとりまとめ、「がん検診年 次報告書」を毎年発行しています。



○ 受診率向上や新しい検診手法の開発をめざして

国立がん研究センターや大学などの研究機関、企業と協力し、がん検診の受診率向上や 新しい検診手法の開発に向けた研究に積極的に取り組んでいます。

受診を迷っている間も

生活習慣病やがんは

進行しています。

受診率向上策の実証事業

日本対がん協会は厚生労働省がPWCコンサルティング合同 会社に委託した「予防・健康づくりに関する大規模実証事業・ がん検診のアクセシビリティ向上策等の実証事業」の実証事 業者に採択されました。国立がん研究センター、(株) キャン サースキャン、(株)プロセシングなどと協力し、がん検診の 受診率向上にはどのような手法が効果的かを集約・検証する 事業を進めています。

実証事業では、行動経済学の 「ナッジ理論」やソーシャル マーケティングなどを取り入 れてつくった資材などをもと に、支部や自治体とともに受 診勧奨を実施。効果を分析し ています。開発した方法を普 及させ、事業が終わった後も 受診率を向上させる体制が続 けられるようになることを目 指しています。

また、受診率の高い自治体をヒアリングしてほかの自治体に 好事例として紹介し、ネットとそれ以外の方法による集団検 診の申し込みの比較、希望する検診の記入方法の比較検証な どを進めています。

血液検査で乳がん発見へ

当協会では、血液中のマイクロRNAというがんマーカーを測 る新たな検診手法の開発を国立がん研究センターなどと共に 進めてきました。北海道、福井、愛媛、鹿児島などの支部も参 加し、乳がん検診受診者に協力を求め、マンモグラフィなどと 比較して新手法を評価しています。

検診無料クーポンの発行

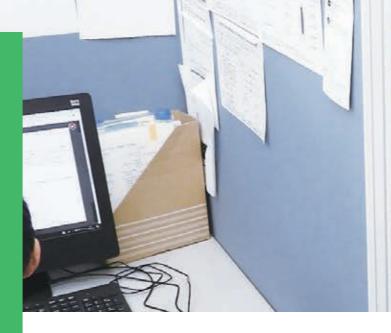
定期的ながん検診の大切さを訴える 広報・啓発活動のほか、受診のきっか けとなるように、協会独自の乳がん (マンモグラフィ)検診無料クーポン券 や子宮頸がん検診無料クーポン券の 発行、配布を行ってきました。2022 年4月からは、賛同する企業とともに 「がん検診デジタルクーポン 無料プ レゼントキャンペーン」を始めました。 乳がんと子宮頸がんの2種類が対象。 スマホやPC経由で多くのご応募をい ただいてます。

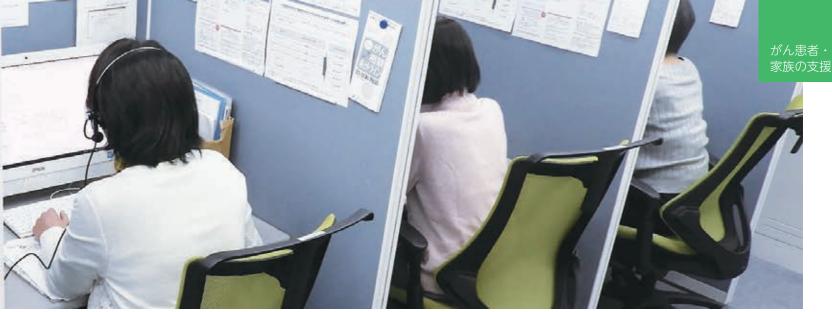


デジタルクーポン

がん患者・ 家族の支援

がんになっても安心して暮 らせるように、がんと共生で きる社会づくりに取り組んで います





無料がん相談

看護師、社会福祉士、社会保険労務士など有資格者である相談員が、がんに関する 悩みや不安に耳を傾け、どうすればよいのかを一緒に考えます。不安な気持ちを誰か に聞いて欲しい、そんなときはわたしたちを頼ってください。

がん相談ホットライン

がんになると、治療や副作用のこと、お金や仕事のこと、毎日の暮らしのことな どさまざまな悩みや心配事が出てきます。がんに関する不安や心配がある方な ら、がんと診断されている方いない方、どなたでもご利用いただけます。予約 は不要。ご相談は匿名でお受けしています。

理念

日本対がん協会がん相談ホットラインは 相談者の言葉に耳を傾け 相談者が次の一歩を踏み出せるような 支援を目指します



- ●相談者が困っていることは何かを一緒に考えます
- ●相談者の思いや考え、価値観などその人らしさを尊重します
- ●相談者にとって必要で、信頼できる情報を提供します
- ●相談者が問題解決できるための行動を具体的に提示します



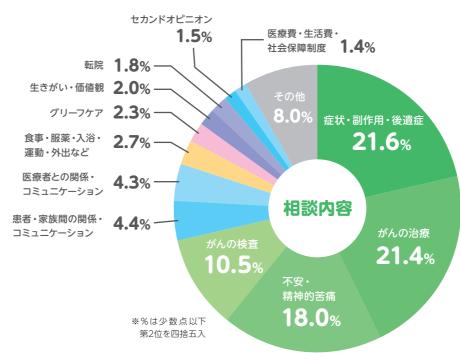
2022年度から、祝日も相談をお受けしています

L 03-3541-7830

受付日時/毎日(年末年始を除く)、10~18時

※受付日時は変更になる場合があります。 事前に日本対がん協会ホームページでご確認ください。

2021年度のがん相談ホットライン相談受付状況



相談員



2021年度相談件数

相談者/患者さん、ご家族、友人など

相談件数7,211件のうち、2回以上利用し た人は55.3%にのぼります。相談内容は 体のこと、心のこと、暮らしに関わるこ と、がんとの向き合い方やこれからの生 き方など、多岐にわたります。加えて、新 型コロナウイルスに関する相談もたくさ ん寄せられました。

相談者の声

治療に迷ったときやホルモン 療法で辛いとき、話を聴いてく れる場所がありとても心強い。 気持ちも楽になりました。

どうしたらいいか分かりません でしたが、頭が整理されまし た。方向性が見えてきて、本当 に良かったです。

ひとりで慌てて、大きな不安に 押しつぶされそうなとき、整理 しながら話してくれて、とても 落ち着きました。

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談

がん患者・がん経験者の悩みの一つに就労の問題があります。働くことは収入を得ることと共に、自分らし く生きるために大切なことです。利用できる制度をはじめ、がんになっても自分らしく生きがいをもって働 けるように社会保険労務士がご相談をお受けしています。

予約窓口 https://ws.formzu.net/fgen/S42276230/

特定社会保険労務士 近藤明美 氏





◯リレー・フォー・ライフ

リレー・フォー・ライフは、がん患者やその家族の支援を目的として、地域全体でがんと向き合うチャリティ活動です。日本では当協会がアメリカ対がん協会からライセンスを得て、各地のボランティア実行委員とともに活動しています。コロナ禍では、オンラインを活用した新たな取り組みも始めています。



3つのテーマに支えられ、使命であるSave Livesが成り立っています

祝う

Celebrate

がんの告知を乗り越え、今を生きて いるサバイバーや家族などの支援者 を讃え、祝福します。

しのぶ

Remember

がんで亡くなった愛する人をしのび追悼します。また病の痛みや悲しみと 向き合っている人たちを敬います。

立ち向かう

Fight Back

がんの予防や検診を啓発し、征圧の ための寄付を募り、がんで苦しむ人や 悲しむ人をなくす社会をつくります。

リレー・フォー・ライフのはじまりと日本での広がり

1985年、腫瘍外科医のゴルディー・クラット氏がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。ともに歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、世界約30カ国、約4500カ所で開催されています。日本では、2006年にプレ開催(つくば)、翌年には兵庫県芦屋市で公式開催され、活動地区が広がっています。2021年度は、48地区でチャリティ活動が行われました。



リレーイベントの流れ リレー・フォー・ライフ活動の1年の締めくくりとしてイベントを開催します。

開会式・ サバイバーズラップ



1周目はサバイバーの方だけが歩きます。がん告知を乗り越え、この日を迎えられたことを祝福します。

ルミナリエセレモニー



想いが書かれたルミナリエを 灯し、がんで亡くなった愛する 人をしのび、がんと向き合っ ている人たちを敬います。

夜越えウォーク(推奨)



ともに歩き続け、朝を迎えられた喜びを分かち合い、朝陽 の下で再び立ち向かうことを 誓い合います。

閉会式



すべての参加者が讃え合い、 次の1年を通して行うチャリ ティ活動への、新たな想いを 胸にします。

RFLセルフウォークリレー

コロナ禍で全国的に、夜通し歩くリレーイベントの開催が叶わない中、2020年度より「RFLセルフウォークリレー」を実施しています。従来のリアルイベントとは異なり、個人が、好きな場所、好きな時間に、「密」を避けて参加できる取り組みです。参加費が寄付になることに加え、スマホアプリで自動計測された参加者の歩数に応じて協賛企業からはマッチング寄付をいただきます。2021年度は27の実行委員会と企業が参画しました。

参加者数 **4,662**人 歩数 **542,459,105**歩

歩数目標5億歩達成



※2021年度実績。個人寄付額すべての収入を含む

ご寄付の使いみち

ご寄付は、リレーイベントやがん相談ホットラインの運営のほか、がん医療の発展のために役立てられています

マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞

地域のがん医療に貢献できる若手医師育成のため、1年間の海外留学研修費用の一部として1人250万円を助成しています。留学先は、全米有数のがん専門病院で



あるテキサス大学MDアンダーソンがんセンターやシカゴ 大学医学部です。2010年度の設立以来、これまでに19人 の若手医師を送り出しました。

※2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止

プロジェクト未来

将来のがん医療に役立つと 期待されるがんの基礎研究、臨床研究、患者・サバイ バー・家族に関する研究に、 1件あたり最大300万円を 限度として助成しています。 新しい治療や新薬の開発、 また患者のQOL改善を期待 しています。



デザイン/名古屋デザイナー学院 高木咲季さん





全国700万人のがんサバイバー(一度でもがんと診断されたことのある方) が「希望と共に生きる」ことのできる社会をつくることを使命とする事業で す。がん患者の「知りたい」「治りたい」「普通の生活がしたい」に寄り添 い、患者や家族、大切な人の「支えたい」を実現する情報をウェブサイトで 発信し、参加者のコミュニケーションを広げるお手伝いをしています。



サバイバーネット

がんの病歴や治療体験、がんに関する

悩みや思いを共有し、互いに励まし合

い、意見交換などを通じて、他の患者・

家族とつながることができるSNSです。

イベントの案内やがんに関するアンケー

トも実施しています。

患者会の育成

「患者会や支援団体などを立ち上げたい 方・運営している方」を対象としたリー ダー育成講座「アドボケートセミナー」を 開催。活動助成も行い、次世代の患者会 の育成を図ります。

ブルーリボンキャンペーン

国際的な大腸がん啓発月間の3月に、市 区町村や民間団体等と連携し、建物など の施設を啓発リボンカラーのブルーにラ イトアップ。大腸がん検診の大切さを伝 え、大腸がんの患者・サバイバーを応援 しています。



アドボケートセミナー JCSD2022 会場の様子

ジャパン キャンサー サバイバーズ デイ

毎年6月第1日曜日、がんサバイバーや 家族のために支援活動情報を提供する イベントを開催。がん患者支援団体が一 堂に会し、参加者同士の交流を促進して います。2022年度は会場とオンライン 配信のハイブリッドで開催しました。

がんに関するニュース、イベント情報など

WEB・SNSでの情報発信

をホームページやSNSでほぼ毎日発信。 月1回配信しているメールマガジンでは、 がん専門医のコラム、がん患者の体験 談、がん患者向けの料理レシピなどを連 載しています。





JCSD2021 基調講演の収録風景 がん教育授業の様子

ブルーライトアップ 東京都庁舎

休眠預金活用 がん患者支援事業

休眠預金を活用する「がん患者支援事業」の資金分配団体に選ば れました。パートナー団体との連携により、がん患者の「仕事と治 療の両立」と「QOLの向上」を支援します。当会独自のリソース を活かし、各団体の取り組みを後押ししています。





がん患者・

家族の支援

パートナー団体の事業概要と事例

CSRプロジェクト

企業内ピアサポーター育成で自立支援、中小 企業のがん患者向けに"アプリで繋がる相談 コミュニティ"の展開



支

働く世代のがんサバイバーの経験共有、交流サイト [WorkCAN's エピソードバンク] https://workcans.episodebank.com/

仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ

地元愛知県で患者・医療従事者・職場を結ぶ 調整機能で就労移行をサポート



がんサバイバー向けYouTubeチャンネル 「仕事と治療の両立支援制度セミナー」 https://bridge-nagoya.jp/bridge/movie/

日本キャリア開発協会

キャリアカウンセリングと企業連携の就労体 験で、仕事復帰へのマッチングを支援





STOCKES STOCKS

がんサバイバーのための仕事のリハビリプログラム 「りぼらプログラム」 https://www.j-cda.jp/ribora/

キャンサーネットジャパン

がん患者の性 (セクシュアリティ) の悩みを AYA世代などが気軽に専門家に相談できる新 スキーム (アプリとコンテンツ整備) の展開



がん患者とパートナーの性についての情報サイト「がんと性」 https://www.cancernet.jp/seikatsu/sexuality/

がんの子どもを守る会

小児がん経験者の晩期合併症に対する長期 フォローアップと受診促進のための啓発活動



小児・AYA世代がん経験者みんなの健康管理サイト http://kenkokanri.ccaj-found.or.jp/

日本希少がん患者会ネットワーク

産官学・患者会、医療従事者間のネットワーク 強化で地域での情報ギャップ解消、正確な診 断と早期治療につなげる



希少がんの患者・家族の情報交流サイト [raccoon] https://raccoon.rarecancersjapan.org/

*本事業は休眠預金、及び当協会・パートナー団体の自己資金を原資とした3年間(2020-2022年度)の草の根活動です

正しい知識の 普及啓発

情報社会の中で正しい知識を 広めるために、普及啓発活動 を行っています





○ ピンクリボンフェスティバル

乳がんで命を落とすひとが一人でも減るように、乳がんの早期発見・適切 な治療の大切さを伝える、日本最大級の乳がん啓発活動を行っています。 検診の受診率向上を目指し、患者さんとそのまわりの人たちを支える活動 に取り組みます。



シンポジウム・セミナ-

最新の治療情報や関心の高いテーマのシンポジウム、20~30代の若い女性に向けて、乳がんとブレストケアについて正しい知識を伝えるセミナーを公式サイトから動画配信しています。





ピンクライトアップ 東京都庁第一庁舎

ピンクの日



ピンクの日

毎月19日を「ピンクの日」とし、ブレスト・アウェアネス (乳房を意識した生活習慣)を推奨するキャンペーンを展開。「ピンクの日」のロゴを使用したSNS投稿や、ピンクにまつわるアクションで、乳がん啓発活動をすすめています。



新京成ピンクリボントレイン



2021年から「MY PINK AC TION 知ろう、自分と乳がんのこと。」をスローガンに、一人ひとりにあった正しい知識の習得と自分に合った適切な行動を促す活動を開始。賛同企業や団体、インフルエンサーの方々とピンクアクションを実施、発信しています。

ピンクリボンフェスティバル 公式サイト



○ がん教育の推進

未来を変えるのは、子どもたちです。がんをむやみに怖がるのではなく、 科学的根拠に基づいて正しく理解し、健康と命の大切さを考えるために、 子どもたちへのがん教育はとても大切です。子どもたちにがんについて 知ってもらうことで、家族や周囲の人たちの意識の変化へとつなげます。



教材の提供

専門医が監修した教材を制作し、主に 教育現場に提供しています。子どもたち が学びやすい動画や「まんが」形式の教 材で、がん教育をサポートします。



文部科学省選定 がん教育アニメ教材 「よくわかる! がんの授業」(字幕・手話入り版)

がん教育授業への支援・協力

新学習指導要領にもとづき、がん教育の授業は2021年度に中学校で全面実施され、22年度から高校でも本格化します。協会は、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、がんサバイバーの協会職員らを外部講師として学校へ派遣し、がん教育の授業に協力しています。



がん教育基金

当協会では国の動きに先駆け、2009年に「がん教育基金」を設けて、小・中・高校生へのがん教育に取り組んできました。法人・個人からのご寄付によって、がん教育教材の制作や配布などを行っています。













○ がん征圧月間とさまざまな取り組み

1960年から9月をがん征圧月間と定め、がんについての正しい知識とがん検診受診率向上などを広く呼びかけるため、グループ支部と共に、さまざまな形でがん征圧活動を展開しています。



垣添会長挨拶 (2021年度がん征圧全国大会)

がん征圧全国大会

全国のグループ支部や患者・支援者らが集まり、最新情報の共有や意見交換をします。コロナ禍で2020年以降はオンライン開催ですが、2021年度は子宮頸がんとHPVワクチン、コロナ禍で減ったがん検診受診者の回復などについてのセミナーとシンポジウムを行いました。

日本対がん協会賞

対がん活動への理解と普及を促すことを目的に、1968 (昭和43) 年に創設しました。がん予防やがん検診、がんに関する正しい知識の普及などのため、長年にわたり地道な努力を重ねてきた個人・団体が対象です。

朝日がん大賞

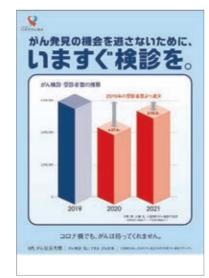
日本対がん協会賞の特別賞として、朝日 新聞社の協力で2001 (平成13)年に 創設。「がん予防」を中心にしたがん医療 の研究、医療機器の研究・開発、患者支援など幅広い分野が対象。第一線で活 躍する個人・団体に贈られます。

2022年度 がん征圧スローガン

毎年、全国のグループ支部から募集して制定しています。支部や自治体、医療機関の刊行物や広告など、さまざまな形で普及促進に活用されています。

がん検診 私にできる がん対策

鹿児島県民総合保健センター・髙野 梢さんの作品



2022年度がん征圧ポスター

各種啓発ツールの刊行

啓発資料としてのリーフレットや、ダウン ロードして使用できる冊子などを制作し ています。全国の検診機関や自治体で 利用されるほか、近年では企業などの 健康保険組合でも活用されています。



各種リーフレット



機関紙「対がん協会報」の発行

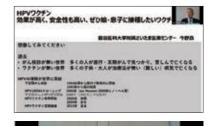
全国のグループ支部の協力によるアンケート調査の結果や、関係機関の研究・統計、当協会の活動報告など、がんに関する最新情報をお届けしています。毎月1回、約9,000部を発行。12月には「がん征圧全国大会」を特集した増刊号も発行します。



医療従事者向け研修会

がんの早期発見には、検診の精度を上げることも大切です。当協会では、診療放射線技師研修会やマンモグラフィ撮影技術講習会、乳房超音波技術講習会などを実施。受講生は全国の検診現場で活躍しています。

※2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止 のため放射線技師研修会(オンライン)のみ開催





2022年度春の保健師・看護師研修会 (オンライン開催)

各種啓発ツールの詳細は公式サイトにてご案内しています



SDGsと日本対がん協会



日本対がん協会のパーパス

「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」 は

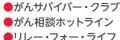
SDGs の重要なフレーズ 「だれひとり取り残さない」と目指す方向が同じです。

SDGsターゲットと 私たちの活動

日本対がん協会の活動は、SDGsの9つのゴール、16のターゲットの達成に寄与して います。がん征圧活動は「医療・健康問題」だけでなく、「社会問題」「経済問題」の 解決を目指す活動でもあります。







●リレー・フォー・ライフ

●がんサバイバー・クラブ

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ





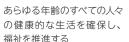
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成すると ともに、持続可能な農業を推進する











- - ●がん検診の推進 ●がん征圧月間

 - ●禁煙推進
 - ●休眠預金活用の助成金事業
 - ●新しい検診手法の開発・研究
 - ●ピンクリボンフェスティバル
 - ●プロジェクト未来
 - ●マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞
 - ●がん相談ホットライン

●企業のがん対策支援

●がん教育の推進





すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機 会を促進する





●休眠預金活用の助成金事業

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る





●社会保険労務士による 「がんと就労」 電話相談

●プロジェクト未来

●がん相談ホットライン

- ●休眠預金活用の助成金事業
- ●ピア・サポート

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な 完全雇用およびディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事) を推進する









強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するととも に、技術革新の拡大を図る



- ●がんサバイバー・クラブ ●リレー・フォー・ライフ
 - ●がん相談ホットライン





国内および国家間の格差を是正する









- ●リレー・フォー・ライフ
- ●ピンクリボンフェスティバル
- ●休眠預金活用の助成金事業 ●がん検診受診率向上
- 大規模実証実験

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシッ プを活性化する

ご寄付について

●寄付額と使途

多くのご支援のおかげで、わたしたちは がん征圧活動を展開することができました。 いただいたご寄付はすべて、

2021年度寄付金総額

寄付金の 内訳

がん征圧のために使わせていただいております。

5244万円 ほほえみ基金 7103万円 主な使途

リレー・フォー・ ライフ・ジャパン

がんサバイバー・クラブ_

1427万円

5億6350万5483m がん征圧基金 4億2265万円

がん征圧基金・・・・・・・当協会のがん征圧活動全般と運営

ほほえみ基金・・・・・・・乳がんに関わる活動

リレー・フォー・ライフ・ジャパン ……… がんの研究助成やがん治療専門家の育成など **がんサバイバー・クラブ** …… がんサバイバーとその家族をサポートする活動など

婦人科がんなどから女性を守る基金 … 子宮頸がんをはじめ婦人科がんについて、 新しい検診方法の調査・研究活動など

婦人科がんなどから女性を守る基金 240万円

がん教育基金 68万円

※千円以下 切り捨て

がん教育基金…………子どもたちにがんの正しい知識を伝えるための活動

● 支援の種類

支援したいと思う活動にご寄付の使いみちを指定することもできます。

支援の種類	寄付・基金名		銀行		郵便局	□座名
活動全般へのご支援	がん征圧基金	みずほ銀行	銀座支店 (店番号035)	普通 1003855	ゆうちょ銀行	公益財団法人
		三菱UFJ銀行	京橋支店(店番号023)	普通 1718240		
	がんサバイバー・クラブ		三井住友銀行 丸ノ内支店 普通 0518150 00180-1-5 (店番号245) ※払込票備者			
	リレー・フォー・ライフ	三井住友銀行		00180-1-5140 ※払込票備考欄に 寄付・基金名を	日本対がん協会	
特定の活動へのご支援	ほほえみ基金	みずほ銀行	銀座支店 (店番号035)	普通 2418773	ご記入ください	
	婦人科がんなどから 女性を守る基金	三菱UFJ銀行	京橋支店(店番号023)	普通 0067244		
	がん教育基金	三菱UFJ銀行	京橋支店(店番号023)	普通 0067257		

上記の詳しいお手続き方法は次ページをご覧ください▶

わたしたちの活動は、みなさまからのご寄付に支えられています。 がんで苦しむ人や悲しむ人をなくすために、

"がん征圧活動"へあたたかいご支援をお願い申し上げます。

●個人/法人のご寄付

毎月の寄付

ご支援金額は1,000円から、一回の登録のみで継続的な定額支援が可能で す。お支払いはクレジットカード決済となります。

今回の寄付

任意の金額をいつでもご支援いただけます。お支払いはクレジット決済または 銀行振込みのご利用が可能です。

銀行/郵便局 からの お振り込み

事前に、当協会のウェブサイト (https://www.jcancer.jp/donation) から 「寄付申込書」 (個人 用・法人用)をダウンロードしてください。必要事項をご記入いただき、下記e-mailまたはファクス で送信後、各金融機関よりお振込みください。

※ご希望の方には、郵便局(ゆうちょ銀行)での振込手数料が免除となる「振込用紙」をお送りいたします。

Eメール kifu@jcancer.jp 寄付申込書の送付先▶ FAX 03-3541-4783

オンライン

 \mathcal{O}

優

遇

日本対がん協会のホームページからお申込みください。 クレジットカードまたは銀行振込によるご寄付が可能です。

ご利用いただけるクレジットカード

VISA/MASTER/AMERICANEXPRESS JCB/DINERSCLUB











●所得税について

寄付金総額の2,000円を超えた額について、その年の課税所得から控除され ます (年間総所得額の40%まで)。確定申告の際に、当協会からお送りする 領収書を添付してください。

●法人税について

特定公益増進法人に対する寄付金合計額と特別損金算入限度額のいずれか 少ない金額が損金に算入されます。

寄付特典

ご希望により朝日新聞地方版紙面へお名 前、寄付金額を掲載させていただくほか、 一定額以上のご寄付をいただいた法人の ご名義は、協会ホームページおよびこの冊 子に掲載させていただきます。

● 遺贈・相続財産・香典のご寄付

遺贈による ご寄付

遺言に基づいて特定の個人や団体に財産を寄付 することを「遺贈」といいます。遺言書で一部ま たは全ての財産の受取人として日本対がん協会 を指定することで、がん征圧活動に遺産を役立 てることができます。

香典・ お花料の ご寄付

葬儀に寄せられた香典やお花料を社会貢献とし て寄付することで、会葬者のみなさまに故人の 気持ちや人柄を伝えることができます。香典・お 花料をいただいた方へのお礼状は、当協会がご 用意します。

※相続税控除の対象にはなりませんが、寄付をされたご 遺族の所得税から寄付金控除が受けられます。

相続財産 からの ご寄付

相続された財産をご寄付いただくこ とで、故人のご遺志、ご遺族の思い をがん征圧活動という社会貢献とし て遺すことができます。



○ 不動産や株式のご寄付

当協会では規定に基づき、不動産や株式など現物資産によるご寄付もお受けしております。 所定のお手続きをいただくことで、みなし譲渡所得税が非課税となります。

● 商品やサービスを通じたご寄付・参加や協力型のご寄付

スマホや

QRコード決済や、携帯電話料金と一緒に支払 いが可能なご寄付です。ソフトバンクのスマー トフォンをご利用の方は、Tポイントでの寄付も 可能です。

事例紹介

事例紹介

- ●ぽちっと募金 (J-Coin Pay/みずほ銀行) ●つながる募金 (SoftBank)
- ●Yahoo!ネット募金 (Yahoo!JAPAN)

普段の お買い物

お買い物ご利用金額に応じた所定の割合を、各 社が負担するご寄付です。お客様さまご自身の 負担は一切ありません。

- ●ピンクリボンカード (オリコカード)
- ●Barbieカード 「ピンクリボン」 デザインカード (ライフカード)
- ●社会貢献プラットフォーム「gooddo」

プンクリボン 5品の購入

ピンクリボンマークがついた商品や、ピンクリ ボン白販機での商品購入がご支援につながる ご寄付です。それぞれ、売り上げの一部が寄付 されます。

事例紹介

- ●ピンクリボン自販機 (キリンビバレッジ)
- ●Newクレラップ・きちんとさんシリーズ商品 (クレハ)
- ●トイレットペーパー (丸富製紙)

不要品の

ご不用になった本や品物などの、買い取りサー ビスを通じたご寄付です。ご不用品がご寄付に かわる、エコなプログラムです。

事例紹介

- ●チャリボン (バリューブックス)
- ●キモチと。(BOOKOFF)

ポイント

クレジットカードや携帯電話料金など、各企業 のポイントプログラムで貯まったポイントを利 用したご寄付です。

事例紹介

- ●dポイント (NTTドコモ)
- ●Gポイント (ジー・プラン株式会社)
- ●Barbieカード 「ピンクリボン」 デザインカード (ライフカード)



チャリティイベントへの参加やチャリティグッズ 購入、設置募金箱へのご寄付でご支援いただ く方法です。

劦働事業

従業員の寄付に企業が同額寄付を上乗せする マッチングギフトや福利厚生制度による寄付、 自社製品やテクノロジーを活用した協働事業で ご支援いただく方法です。

企業の特性を生かしたご支援で社会貢献が可能です

商品やサービスを通じた売り上げの一部をご寄付いただ く方法や、ポイントプログラム・株主優待などの顧客サー ビスで、顧客や株主とともにご支援いただく方法、自社の 強みを生かしたご支援の方法などがございます。詳しく は、ホームページをご覧ください。



びボランティアによるご支援

イベントや冊子発送作業など、当協会の活動はボラン ティアの方々にも支えられています。 詳しくは、ホームページをご覧ください。

https://www.jcancer.jp/volunteer

お問い合わせ・資料請求

日本対がん協会 寄付担当

平日10時から17時(土日祝日、12月29日~1月3日を除く)

111 03-3541-4771 **142** 03-3541-4783

kifu@jcancer.jp

日本対がん協会寄付WEBサイト https://www.jcancer.jp/donation



紺綬褒章

日本対がん協会は、内閣府より公益のために私財を寄付された 方へ授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けております。

2020年12月10日以降で、 個人の方は500万円以上、 団体・企業は1.000万円以 トのご寄付をいただいた場 合に紺綬褒章授与申請の 対象となります。予めお申 し出いただいた分納による ご寄付も含まれます。

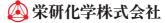


日本対がん協会の活動は、みなさまから寄せられたご寄付により支えられています 今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます



株式会社朝日新聞社





栄研化学株式会社





小野薬品工業株式会社

株式会社ECC

CANDRIAM

CANDRIAM

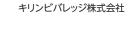
株式会社NTTドコモ







GAジャパンカンパニー合同会社







近畿労働金庫



JOHNSON & JOHNSON K.K. ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカル カンパニー

Johnson-Johnson





株式会社新日本科学



住友生命保険相互会社



株式会社千趣会



大樹生命保険株式会社



大鵬薬品工業株式会社

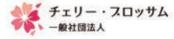




武田薬品工業株式会社



株式会社竹中工務店



一般社団法人チェリー・ブロッサム

丸富製紙株式会社



テルモ株式会社







株式会社三菱UFJ銀行 三菱UFJ銀行社会貢献基金



ラルフ ローレン合同会社



リレー・フォー・ライフ

全国実行委員会





株式会社ワコール

RALPH LAUREN

ロシュ・ダイアグノスティックス 株式会社

あずさ監査法人 アステラス製薬 エフエムジー&ミッション **MSD** 熊谷組 IZA

クレディセゾン サノフィ

青森朝日放送 秋田朝日放送 朝日広告社 朝日新聞出版 医療健康編集部 朝日新聞総合サービス 朝日ビルディング アナスタシア ミアレ アライ興産 有馬芳香堂 アルフレッサ アルフレッサ ファーマ イーウェル イズミ車体製作所 伊勢半グループ 一の宮カントリー倶楽部

エイブル エーザイ SGホールディングス エフエム東京 エレクター おいしい健康 大分大山町農業協同組合

凰商事 OLIGHT ECOMMERCE TECHNOLOGY

荻野屋 尾張車体工業 カーブスジャパン 加賀電子 鹿児島放送

神奈川県立がんセンター 神奈川東部ヤクルト販売 カナミックネットワーク

カネカ 関西スーパーマーケット キヤノン 九州がんセンター キユーソー流通システム キューブ 共栄会保険代行

京セラ 京成自動車工業 慶友会吉田病院 国際女性支援協会 コスモ・ピーアール コットン・ラボ コニカミノルタジャパン 埼玉新聞社 サクマ製菓 さくらケーシーエス

サクラファインテックジャパン

ジュピターゴルフネットワーク 新川電機

スタージュエリーブティックス 第一二共

髙島屋 雷诵

三栄製薬

三協印刷

資牛堂

日本イーライリリー 日本冶金工業

ササビーリーグエーアンドエスカンパニー ジェイメック 日本フイルコン 日本薬剤師会 資生堂 カメリアファンド

シミックソリューションズ 社会保険出版社 ハイサイド

ジャノメ ジャパン・カインドネス協会 城北ヤクルト販売 新京成電鉄 信託協会 新潮社 スティールストリート スリーボンド貿易 ズンバサークル 生命保険協会

全国銀行協会 ST. MARY'S INTERNATIONAL SCHOOL

早期胃癌検診協会 第一生命保険 大器 高山信用金庫 宝島ワンダーネット WDI JAPAN 中央労働金庫 中外製薬 中外製薬工業

DINOS CORPORATION DoersTokyo 東京都医師会 東京特殊車体 東京都社会保険労務士会 東京東信用金庫 東京ヤクルト販売 東京リボン

東芝ビジネスエキスパート 東邦薬品

豊洲市場青果連合事業協会

中北薬品 長野朝日放送 中野区障害者福祉事業団 長野県労働金庫 名古屋テレビ放送 新潟県労働金庫 日刊スポーツPRESS 日清製粉グループ本社 日本化薬

ハッチヘルスケア ハッピージャパン ブリストル・マイヤーズ スクイブ

博報堂DYホールディングス

パーソルテンプスタッフ

ポーラ ホクト ヤフー

日本成人病予防協会 日本ネイリスト協会 日本歯固め玩具協会 ノバルティス ファーマ PIONEER-CONSULTING

ハローデイ パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス

パンジー 阪神調剤薬局 PRAヘルスサイエンス ビーエス朝日 東札幌病院 東日本放送 日立保険サービス フォーク 富国生命保険

藤井隆広クリニック ベックマン・コールター ヘルスビューティー ポーラ・オルビスホールディングス

ほしの 北海道キリンビバレッジ

北海道テレビ放送 Horizon Japan International School

マブチモーター

みすず

みずほフィナンシャルグループ 三井住友信託銀行

三菱UFJインフォメーションテクノロジー 三輪塗装

武蔵野社 ムラコシホールディングス

山口朝日放送 山口プロバスケットボール

山星屋

山元泌尿器科医院 ユニ・チャーム ライフカード ライフクリエーション LAVA International 琉球朝日放送 良品計画 ルックホールディングス

レオパレス21 レリアン

(五十音順)

25

(五十音順)

日本証券業協会

グループ支部

北海道•東北	支部名 (公財)北海道対がん協会	世 所 〒065-0026 札幌市東区北26条東14丁目1-15	011-748-5511	011-748-5512
	(公財)青森県総合健診センター	〒030-0962 青森市佃2丁目19-12	017-741-2336	017-741-2386
	(公財)岩手県対がん協会	〒028-3609 岩手県紫波郡矢巾町医大通2丁目1-6	019-618-0150	019-697-8833
	(公財)宮城県対がん協会	〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目7-30	022-263-1525	022-263-1548
	(公財)秋田県総合保健事業団	〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6	018-831-2011	018-831-1663
	(公財)やまがた健康推進機構	〒990-9581 山形市蔵王成沢字向久保田2220	023-688-8333	023-688-3734
	(公財)福島県保健衛生協会	〒960-8550 福島市方木田字水戸内19-6	024-546-0391	024-546-2058
関東·甲信越	(公財)茨城県総合健診協会	〒310-8501 水戸市笠原町489-5	029-241-0011	029-241-0332
	(公財)栃木県保健衛生事業団	〒320-8503 宇都宮市駒生町3337-1 とちぎ健康の森3F	028-623-8181	028-623-8586
	(公財)群馬県健康づくり財団	〒371-0005 前橋市堀之下町16-1	027-269-7811	027-269-8928
	(公財)埼玉県健康づくり事業団	〒355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井410-1	0493-81-6024	0493-81-6747
	(公財)ちば県民保健予防財団	〒261-0002 千葉市美浜区新港32-14	043-246-0350	043-246-8640
	(公財)かながわ健康財団 がん対策推進本部	〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 神奈川県総合医療会館内	045-243-6933	045-243-2019
	(公財)新潟県健康づくり財団	〒951-8124 新潟市中央区医学町通二番町13	025-224-6161	025-224-6165
	(公財)山梨県健康管理事業団	〒400-0034 甲府市宝1丁目4-16	055-225-2800	055-225-2809
	(公財)長野県健康づくり事業団	〒381-2298 長野市稲里町田牧206-1	026-286-6400	026-286-6412
	(公財)富山県健康づくり財団 [富山県健康増進センター]	〒939-8555 富山市蜷川373	076-429-7575	076-429-7146
東海・北陸	(公財)石川県成人病予防センター	〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6	076-237-6262	076-238-9207
	(公財)福井県健康管理協会	〒910-3616 福井市真栗町47-48	0776-98-8000	0776-98-3502
	(公財)岐阜県教育文化財団	〒502-0841 岐阜市学園町3丁目42 ぎふ清流文化プラザ1F	058-233-5810	058-233-5811
	静岡県対がん協会	〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3丁目6-3 静岡県医師会館内	054-245-5655	054-245-5655
	(公財)愛知県健康づくり振興事業団 総合健診センター	〒470-1101 豊明市沓掛町石畑142-20	0562-92-9011	0562-92-9013
	(公財)三重県健康管理事業センター	〒514-0062 津市観音寺町字東浦446-30	059-228-4502	059-223-1611
	(公財)滋賀県健康づくり財団	〒520-0834 大津市御殿浜6-28	077-536-5210	077-536-5211
	(一財)京都予防医学センター	〒604-8491 京都市中京区西ノ京左馬寮町28	075-811-9131	075-811-9138
近畿	(公財)大阪対がん協会	〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69 大阪国際がんセンター 患者交流棟2F	06-7777-3565	06-6585-0353
畿	(公財)兵庫県健康財団	〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-12	078-579-1300	078-579-1400
	(一財)奈良県健康づくり財団	〒636-0302 奈良県磯城郡田原本町宮古404-7 県健康づくりセンター内	0744-32-0230	0744-32-8664
	(公財)和歌山県民総合健診センター	〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビック愛5F	073-435-5206	073-435-5208
	(公財)鳥取県保健事業団	〒680-0845 鳥取市富安2丁目94-4	0857-23-4841	0857-23-4892
中国・四国	(公財)島根県環境保健公社	〒690-0012 松江市古志原1丁目4-6	0852-24-0013	0852-24-0122
	(公財)岡山県健康づくり財団	〒700-0952 岡山市北区平田408-1	086-246-6254	086-246-6258
	(公財)広島県地域保健医療推進機構	〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29	082-254-7111	082-254-1168
	(公財)山口県予防保健協会	〒753-0814 山口市吉敷下東3丁目1-1	083-933-0008	083-923-5567
	(公財)とくしま未来健康づくり機構 [徳島県総合健診センター]	〒770-0042 徳島市蔵本町1丁目10-3	088-633-2266	088-633-1811
	(公財)香川県総合健診協会	〒761-8031 高松市郷東町587-1	087-881-4867	087-881-8171
	(公財)愛媛県総合保健協会	〒790-0814 松山市味酒町1丁目10-5	089-987-8200	089-987-8250
	(公財)高知県総合保健協会	〒781-9513 高知市桟橋通6丁目7-43	088-831-4800	
	(公財)ふくおか公衆衛生推進機構	〒810-0001 福岡市中央区 天神4丁目1-32 天神リバーフロントビジネスセンター2F		092-722-2563
九州・沖縄	(公財)佐賀県健康づくり財団	〒840-0054 佐賀市水ケ江1丁目12-10 佐賀メディカルセンタービル内	0952-37-3301	0952-37-3061
	(公財)長崎県健康事業団	〒859-0401 諫早市多良見町化屋986-3		0957-43-7139
	(公財)熊本県総合保健センター	〒862-0901 熊本市東区東町4丁目11-1		096-368-6776
	(公財)大分県地域保健支援センター	〒870-0011 大分市大字駄原2892-1	097-532-2167	
	(公財)宮崎県健康づくり協会	〒880-0032 宮崎市霧島1丁目1-2 宮崎県総合保健センター内		0985-38-5014
	(公財)鹿児島県民総合保健センター	〒890-8511 鹿児島市下伊敷3丁目1-7		099-220-2883
	(一財)沖縄県健康づくり財団	〒901-1192 沖縄県島尻郡南風原町字宮平212	098-889-6474	098-889-6463

○理事

代表理事 会 長 垣添 忠生 元国立がんセンター総長

代表理事 理 事 長 梅田 正行 朝日新聞社 顧問

常務理事 石田 一郎 日本対がん協会業務執行理事

常務理事 佐野 武 がん研有明病院 病院長

常務理事 中釜 斉 国立がん研究センター 理事長

理 事 安斎 隆 東洋大学 理事長・セブン銀行 特別顧問

理 事 今村 聡 日本医師会 副会長

理 事 金井 洋 生命保険協会 副会長

理 事 中村 史郎 朝日新聞社 代表取締役社長

理 事 本多 由紀 資生堂 ダイバーシティ&インクルージョン戦略推進部長

●監事

清水 隆 朝日新聞社 常務執行役員財務担当

矢野 拓也 公認会計士・税理士

●評議員

アグネス・チャン 歌手・タレント

岸本 葉子 エッセイスト

坂下千瑞子 東京医科歯科大学 血液内科特任助教

佐川 元保 東北医科薬科大学 光学診療部教授

佐々木常雄 東京都立駒込病院 名誉院長

中川 恵一 東京大学大学院 医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授

野田 哲生 がん研究会がん研究所 所長

長谷川 玲 朝日新聞社 執行役員

藤澤 武彦 千葉大学 名誉教授、ちば県民保健予防財団 理事長

松浦 成昭 大阪国際がんセンター 総長、大阪対がん協会 会長

森 昌平 日本薬剤師会 副会長

山口 建 静岡県立静岡がんセンター 総長

山根 則幸 予防医学事業中央会 専務理事

山本 秀樹 日本歯科医師会 常務理事